

授業科目名・形態	栄養学	講義	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	工藤 友子		実務経験の有無	有	開講期	1年後期

【授業の主題】

生命を営む上で必須となる「栄養学」の基礎知識を理解して、健康の維持や疾患の治療における栄養食事療法の役割と実際について学ぶ。特に、高齢者の低栄養や成長期の栄養バランス、各ライフステージを通して生活習慣病を予防するための栄養マネジメントなど、基礎知識を対応へと進める。また、他の専門職と連携して医療と保健活動など、栄養・食事面における看護の役割やアプローチの仕方について深める。

【到達目標】

1. 栄養学の基礎知識を知って、健康の維持や疾患治療における栄養食事療法の役割を理解する。
2. 医療と保健活動における栄養ケア・マネジメント等、アプローチの仕方を深める。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 人間栄養学と看護：栄養とは、歴史、保健・医療制度、看護と栄養、チーム医療と栄養ケア
- 第 2 回 栄養素のはたらき：三大栄養素、ビタミン、ミネラル、食物繊維、水
- 第 3 回 食物の消化と栄養素の吸収：消化器系のしくみとはたらき、三大栄養素の消化、吸収機構
- 第 4 回 栄養素の代謝：血漿成分、代謝と体内環境、肝臓、核酸代謝、吸収・代謝産物の排泄 他
- 第 5 回 エネルギー代謝：食品のエネルギー、体内エネルギー、エネルギー測定、エネルギー消費
- 第 6 回 食事と食品：食文化、日本人の食事摂取基準、食品と栄養素、食品群と分類法、保健機能食品
- 第 7 回 栄養ケア・マネジメント：ケア計画、看護の役割、栄養スクリーニング、アウトカム
- 第 8 回 栄養状態の評価・判定：栄養アセスメント、栄養状態の評価判定法、臨床検査、食事調査
- 第 9 回 ライフステージと栄養：乳児期、幼児期、学童期、思春期・青年期
- 第10回 ライフステージと栄養：成人期、妊娠期、授乳期、更年期
- 第11回 ライフステージと栄養：高齢期のケア・マネジメント（計画、食事、咀嚼・嚥下機能）
- 第12回 臨床栄養：栄養補給法（経腸栄養法・静脈栄養法）、病院食、成分コントロール食、易消化食
食塩制限食、経腸栄養製品、静脈栄養剤、投与経路
- 第13回 疾患別食事療法：循環器疾患、消化器疾患、栄養・代謝疾患、腎臓、食物アレルギー 他
- 第14回 場面別栄養管理：小児、術前・術後、高齢者、がん 他
- 第15回 健康づくりと食生活：食生活の安全性と課題、新食生活指針、食生活の改善の施策 食の安全 他
- 第16回 定期試験

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。＊プレゼン使用

【授業準備】

講義内容について教科書で事前に予習し、講義後は配付プリントなどにまとめること。

【主な関連する科目】

人体の構造と機能Ⅱ（解剖と生理学・生化学）、地域・在宅看護論

【教科書等】

- ① 系統看護学講座専門基礎分野「人体の構造と機能③栄養学」、著：小野章史ら、医学書院
- ②「糖尿病食事療法のための食品交換表」第7版、編集：日本糖尿病学会、日本糖尿病協会、文光堂

【参考文献】

- ① 系統看護学講座別巻6「栄養食事療法」、足立香代子ら、医学書院「腎臓病食品交換表」第7版、医歯薬出版株式会社

【成績評価方法】

筆記試験の成績 90%、課題レポート 10%で総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

管理栄養士、栄養教諭の経験を活かし、栄養素の種類やはたらき、食物の消化・吸収・代謝、食品と食事、栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価と判定、臨床栄養、ライフステージにおける健康づくりと食生活、食の安全など、看護や保健について分かりやすく講義する。

【学生へのメッセージ】

日常の食事や栄養に関心を持ち、健康的な食生活ができるように自己管理しましょう。その上で看護における食の役割やアプローチの方法を考えてください。予習、復習を行い積極的に臨むことを期待します。